



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

2022年1月25日

第73回 青雲塾 報告

<https://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/list.html>

青雲塾担当 山西雅人 (30期)

1. 開催日 2022年1月15日 (土)
2. 場所 グランフロント大阪 北館 ナレッジキャピタル 7階 「ナレッジサロン」
3. 演題 「オダサクの西鶴—織田作之助の翻案の方法」
4. 講師プロフィール
大阪大学大学院文学研究科・文学部 教授
斎藤 理生 (さいとう まさお) 氏
1975年生
大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了
博士 (文学) (大阪大学、2004年)
群馬大学教育学部講師、同准教授を経て、
2014年4月より大阪大学大学院文学研究科准教授
2021年4月より現職
専攻：日本近現代文学

5. 講師から

2022年1月15日、青雲塾で「オダサクの西鶴—織田作之助の翻案の方法」というお話をいたしました。新型コロナウイルスの感染状況が悪化するなかで、あまり多くの参加者は見込めないのでは、と恐れていましたが、感染対策された上で、多くの方にお越しいただきました。今回は、大阪の作家として有名な織田作之助は、より具体的には、どのような小説を書いた作家であったのか？ということを中心にお話ししました。その際、やはり大阪の作家として知られる井原西鶴の「人には棒振虫同然に思はれ」という、明治大正期以来評価の高い短篇を取りあげ、この短篇を現代風に翻案した織田作之助の作品『雪の夜』を主たる題材にしました。また、オダサクの作風の特徴を明瞭にするために、同じ西鶴作品を翻案した太宰治の作品にも触れ、比較しました。90分間、長々とお話ししましたが、受講者のみなさんがとてもよく反応してくださり、話しやすい雰囲気を作ってもらえました。質問をいただいて、回答するなかで、わたし自身にも発見があり、よい勉強になりました。ありがとうございました。

6. 青雲塾担当から

今回は新型コロナウイルス感染対策をとったうえで、屋内の会議室で開催しました。講師の斎藤教授には、井原西鶴の「人には棒振虫同然に思はれ」を現代風に翻案した作品である織田作之助の「雪の夜」と、同じく太宰治の「遊興戒」について、文学に疎い私にも理解できるように分かりやすく解説いただきました。青雲会 8 期から 30 期の会員とそのご家族ご友人合計 14 名が参加し、講師のお話に関心を持って耳を傾けました。

7. 写真



1. 講演風景



2. 講師の斎藤教授



3. 感染対策の施された会議室



4. 講師の話に聞き入る受講者